

(仮称) 山口市武道館整備基本計画【概要版】

第1章 計画策定の背景

1 これまでの経緯

- (1) H23. 11 要望書提出（武道関係10団体、22,734人分の署名）
- (2) H27. 8 山口市武道館建設検討委員会設置
H30. 4 委員会から必要性が報告される（留意事項あり）
- (3) H31. 3 山口市武道館設置促進議員連盟設立
- (4) R 5. 3 第二次山口市総合計画後期基本計画に「武道館の整備推進」を位置づける

2 武道を取り巻く環境

(1) 武道競技人口の推移

	H27	R6	増減
市スポーツ少年団	599	453	▲ 146
市スポーツ協会	1,692	1,607	▲ 85

スポーツの減少を鑑みると成人における武道人口は横ばい又は増加と推測

▽ 各協会・連盟に加盟する団体における5年間の登録者の増減割合

	団体数	割合
増加（+20%以上）	6	20.0%
横ばい（±20%以内）	17	56.7%
減少（-20%以上）	3	10.0%
不明	4	13.3%

約8割の団体が増加または横ばい

(2) 武道施設の整備状況（公有施設）

- ・市柔剣道場（山口市古熊、S53築、畳1面・床1面）
→道場は老朽化かつ狭く大会開催が困難
- ・維新大晃アリーナ武道館（県立、畳2面・床2面）
→大規模な大会等が多く開催されており、市の武道関係団体が主催する大会や合同練習、指導者育成の場などの確保が困難
- ・県内13市の武道施設の整備状況（下表）
→県内13市のうち3番目に低く、他市に比べて恵まれている状況とは言えない。

▽ 1,000人当たりの武道競技コート数

	競技コート数 (A)	武道競技人口 (B)	1,000人当たりの 競技コート数 (A/B×1000)
山口市	8	1,643	4.87
県内平均	73	7,372	9.90
総人口10万人以上の6市平均	49	5,719	8.57
県内最多の状況	2	53	37.74
県内最少の状況	6	1,378	4.35

(3) 武道競技団体の活動場所

武道は裸足で行う等の特性から、武道施設にはそれに適した床材や弾力性のある床構造など一般的な体育館とは異なる配慮が必要。

武道施設の整備状況が恵まれているとは言えない状況の中、6割を超える団体が小中学校の体育館や地域交流センターといった、武道を行うには十分とは言えない環境下で活動されている。

(4) 市民生活の状況等

- ・市民が今後行ってみたいスポーツ
→体操・太極拳・ヨガなど武道場仕様と親和性の高いスポーツが比較的上位
- ・中学校における武道の必修化

3 上位計画・関連計画との関連

- (1) 第二次山口市総合計画後期基本計画 → 武道館の整備推進を計画に位置づける
- (2) 第3期山口市スポーツ推進計画
- (3) 山口市公共施設等総合管理計画 → ライフサイクルコストの縮減

第2章 (仮称) 山口市武道館の整備

1 武道館の必要性

- ・大会・講習会等の会場や日常の鍛錬の場が不足。
- ・武道の普及や競技者の競技力、指導者の指導力を高めていくためには、武道振興の拠点となる施設が必要。

2 武道館整備の目的

(1) 武道の普及・競技力の向上

次世代を担う子どもたちの武道への関心や武道関係者の活動意欲を喚起させる受け皿として、武道競技に適した施設を整備し、武道の普及と競技力の向上を図る。

(2) 市民の体力づくり・健康づくりの推進

多様化するスポーツニーズに幅広く対応し、年齢や障がいの有無を問わず、誰もが安心安全で、気軽に武道等を楽しむことができる施設を整備し、市民の体力づくりや健康づくりの推進を図る。

(3) スポーツによる賑わいの創出

武道大会等を積極的に誘致・開催できる武道競技に適した施設を整備し、スポーツによる交流人口の増加や賑わいの創出を図る。

3 基本コンセプト

(1) 本市の武道振興と地域活性化に資する武道館

(2) 誰もが安心安全で、気軽に利用できる武道館

(3) 効率的な整備・運営を考慮した武道館

4 施設の概要

(1) 整備場所（候補地）

やまぐちリフレッシュパーク芝生広場



候補地とする理由

既存施設との相互利用・連携により県大会・中国大会等の開催が可能

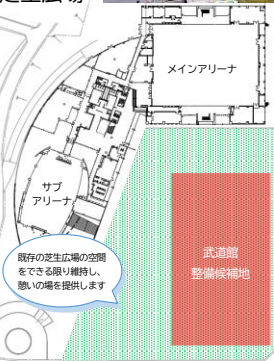
既存施設との一体的な維持管理による効率的な運営が可能

必要な面積が確保できる

利用者の駐車場が確保できる

用地取得費ができる限り生じない

ICや主要幹線道路からのアクセス



芝生広場内の配置イメージ

(2) 導入する機能

詳細は、基本設計を進める中で検討していく

区 分	内 容
① 競技コート数	4面（横一列型）
② 観客席の席数	400席程度を想定
③ 付帯諸室・付帯設備	付帯諸室：更衣室、トイレ、会議室、器具庫を想定 付帯設備：空調設備
④ 仕様	・平屋 ・シンプルでコンパクトな施設とする ・メンテナンスが容易で備みにくく長持ちする経済的なものとする
⑤ その他	新たに200台程度の駐車場の確保を検討

(3) 施設整備にあたり考慮すべき事項

動線の確保	公園空間の確保	スポーツ環境への配慮
経済性・環境への配慮	市内産木材等の活用	
ユニバーサルデザインへの配慮	防災機能の確保	

(4) 施設整備後の利用見込み（稼働率）

- ・休日日中 約70%（大会等で利用）
- ・平日夜間 100%（日常の鍛錬で利用）
- ・休日夜間 約75%（日常の鍛錬で利用）
- ・平日日中 約5%（日常の鍛錬で利用）

トップアスリートとの交流事業や武道競技への関心を広げる取組の展開による競技人口の底上げ

ヨガやダンス、ニュースポーツなど武道以外のスポーツによる利用

更なる稼働率の向上

5 事業手法の検討

6 概算事業費

(1) 概算事業費

今後の基本設計において、施設概要をある程度具体化した段階で算出する。

【理由】下記により事業費が変動する可能性があるため

- ① 昨今の建築資材や人件費の高騰の状況
- ② 今後検討していく建物の構造や仕様、付加機能、付加設備の状況
- ③ 芝生広場の地盤調査の結果

なお、武道館の整備にあたっては、建設コスト、維持管理コストについて十分に考慮し、ライフサイクルコストの低減を図りつつ利便性の高い施設整備を目指す。

(2) 財源

- 学校施設環境改善交付金（補助率3分の1）
- 学校教育施設等整備事業債（充当率75%、交付税措置なし）
- ※ 国の動向に注視しながら有利な財源の活用を検討する。

7 今後のスケジュール

令和7年度	基本設計、芝生広場の地盤調査
令和8年度	実施設計
令和9年度	工事発注手続き、建設工事
令和10年度	建設工事、供用開始

整備内容等により変更する可能性あり